

冬將軍

木枯らしが吹いて雲がいつしか雪に変わると、冬將軍という言葉の響きがずしり重く感じる季節となる。自然の厳しさが大きな幻の影となって怪物のように振る舞う冬將軍。辞書を引くとモスクワに突入したナポレオンが厳冬と積雪に悩まされた史実に因む冬の異名、冬の厳しさを擬人化したもの」と書かれている。確かにナポレオンのモスクワ遠征は惨憺たる敗北に終わっているが、本当に冬將軍に負けたのだろうか。モスクワ遠征には、ロシア側から見たトルストイの『戦争と平和』があり、日本では両角良彦の『一八二二年の雪、モスクワからの敗走』に詳しく描かれている。史実を味わって冬將軍の実像を再考してみた。

ナポレオンのモスクワ遠征は一八二二年の月に日、ロシア国境のニメン河の奇襲渡河作戦で始まった。精銳の近衛師団一萬一千を含むおよそ五万人の遠征軍が直線距離では約600km先のモスクワを目指しての長駆の旅立ちをした。初夏の出発だったが次第に真夏の炎熱の下での行軍に変わり、年間で最も多雨な七月のしつこく雨でぬかるみと化した泥道に阻まれ、大軍への補給の困難さくる飢えと混成軍の弱点をさらけ出した。モスクワまでの半分の地点で敵軍との一度の会戦なしで、すでに半数の兵力を失っていた。果てしなく広がるロシアの大平原に揺らぐ夏將軍の炎熱の陽炎、そのなかにナポレオンの大遠征群が溶け込むように消えていった。モ

スクワ攻防の天王山だったボロジの会戦は双方合わせて三万五千人の死者をだして短い夏とともに関わった。

歓喜のモスクワ入城となった9月14日には、すでにナポレオン軍は出発時の実に三分の二の兵力を失い、秋の季節の到来とともに勝機はすでに幻と消えた。深まる秋に退くべきが籠城すべきか決断を迫られていたナポレオンに「十月三日のモスクワに降った初雪が全てだった。すぐに解けたがこの雪を機に冬への恐怖が奔流となって総退却へと向かわせた。記録では一〇月の末の寒波が襲来とともに雪となり、フランス軍を含む南ヨーロッパから派遣された軍隊にとつては恐怖に変わった。浮き足立った退却戦はロシア軍やコサックの追撃で敗走に次ぐ敗走となった。帰路の半ばをさ迷う二月の中ごろになると、モスクワの西の丘陵地帯で時にはマイナス十数度となり、夜間はマイナス50度まで下がったという。冬至にあと一月と迫るこの時期

北緯55度付近に位置する戦場の日の出は日に日に遅くなり、秋の日はつるべ落としのごとく夕暮れは早い。暗さと寒さが決定的な打撃となった。寒波と追撃を逃れて出発点に戻れたナポレオン軍はわずか五千、精銳の近衛師団ですら百分の一の五〇〇人という壊滅的な敗北を被っていた。

一八世紀末から一九世紀初頭にかけてのヨーロッパは小氷期と呼ばれるほどの歴史的な低温期となっていた。一八二二年の年末から三年始めにかけての冬はまさにその異常さのまっ只

中であつた。遠征路上のポランド国境に近い現在のリアニアのヴェルナでの11月の月平均気温が、平年より一・九度低いマイナス〇・九という記録が残っているが、札幌の二月の気温程度の気候で厳冬とはとても言えない。しかし「転じて二月の平均気温は平年に比べ八・三度も低いマイナス二・二度、翌三年の一月は五・二度低いマイナス一〇・九度となった。まさに百年か二百年に一度の記録的な厳しい冬であつた。日本でも淀川が凍り両国の川に氷が流れ、諏訪湖の御神渡りの記録でもおよそ百年に一度あるかなしの異常に早い湖面の結氷と御神渡りが記録されていた。過去に例を見ない記録的な寒さを纏った冬將軍がヨーロッパ平原を席卷したが、その時はすでにナポレオンは敗れ去ってしまったあとであつた。

もともと冬將軍という言葉はロシアになかつた。ロシアの自然誌のなかでそれに相当する言葉として登場するのが白い髭をはやした「じわるマロス爺さん」である。厳しい寒さや雪や吹雪をもたらす強大な力への恐怖と畏敬から、怪物マロスに厳寒を擬人化させたもので、まさに冬將軍そのものとなり、中国古代の国、夏かの炎（えん）帝の対極におかれた。ナポレオンは夏の炎帝の負け、初冬の寒さとコサックに負け最後に冬將軍に息の根を止められたことになる。

冬將軍の雄はシベリヤ高気圧である。高気圧の最強なものはウラル山脈を越えて西に張出し東西に6千kmにも及ぶ大勢力となり、中央シベ

リヤ高原で記録された一〇八三・八^五が世界で最も高い気圧である。冬將軍の先触れが木枯らし一号、冬將軍のゆるみを「瞬ついた春の南風が春一番となり、寒波が次から次と日本海を渡ると日本海側で大雪となる。しがらみを度外視した雪国改造構想では、ヒマラヤ山脈を削ってシベリヤ高気圧を改造してしまうという案がある。寒気を溜め込む役目のヒマラヤ山脈を削ってしまうは、冬將軍が大勢力になる前に寒気が小出しとなつて移動性高気圧つて離れるので勢いを弱めることが出来るという発案である。ただしピークを削るだけでも本州ほどの範囲を削るも削らなければならない。自然の怪物、冬將軍に対抗するには壮大なアイデアが必要となるが実現は絶望的である。